

韓 国 語

第 1 高等学校教科担当教員の意見・評価

1 前 文

昨年度初めて「韓国語」が大学入試センター試験（以下「センター試験」という。）に導入され、今年度が2度目の実施となった。受験者数は昨年度の99名から70名増え169名となり、また平均得点は昨年度の165.40より若干アップし170.96を記録した。後述する各問題の分析でも述べるが、問題の難易度自体は昨年度より若干難しくなっている。にもかかわらず平均点がアップし、なおかつ170点以上の得点者が3分の2以上を占めたことは、今年度も受験者の大多数が日本の高等学校で韓国語を学習した者ではなく、民族学校出身者及び帰国生徒であったことを示していると言える。高等学校で学習した受験者が増えなかったことは残念である。理由は、現行の試験制度と高校韓国語教育の実態との乖離によるものであることは明らかである。

昨年度の試験問題評価委員会報告書の中で、問題作成部会は問題作成の方針として以下のように述べている。「・・・しかしながら『韓国語』は、当初から二つの大きな問題を抱えていた。第一に・・・（中略）・・・新科目であるにもかかわらず、試行問題を実施するなど、教育現場の実態を把握するための時間がなかった。第二に、高等学校における韓国語教育は標準となるカリキュラムや教科書を欠いており、高校現場の教育水準について手探り状態のまま作題せざるを得なかった。・・・（中略）・・・問題の難易度は『ドイツ語』『フランス語』に準じるものとし・・・」

問題作成部会が言うドイツ語・フランス語の難易度が、はたしてどの程度の学習時間数を想定しているのか正確にはわからないが、第一外国語の範疇である限り、12単位を下まわることはないであろう。ところが、現在12単位を超える授業時間数を確保している高等学校は、本委員が知る限り東京の私立関東国際高校韓国語コース1校のみである。（平成15年度より長崎県立対馬高校に韓国語の専門コースが開設されるが、12単位以上を学習するまでは今後3年かかる）つまり、問題作成部会がいうドイツ語・フランス語に準じた難易度の試験問題を作成しようとしても、現状の高等学校の実態を踏まえて作題することは、ほぼ不可能なのである。今年度の受験者169名を多いと見るか、少ないと見るかは別問題として、高等学校における学習の理解度を判定するというセンター試験の趣旨と、この現状との乖離をどのように説明するのだろうか。現状を放置する限り、若干の改善は見込めても、本来の趣旨との乖離が狭まっていくことは困難であろう。センター試験に第二外国語という新たな教科を新設しそこに韓国語を入れるか、もしくは英語とは別途に外国語として新たな学習基準を設けるか、このいずれかを実行しない限り問題の解決はあり得ないと思われる。関係者の方々による早期の対応が望まれるところである。

教育の現況と試験の実施制度の間に大きな乖離があるのは事実だが、その制約の多い状況の中で問題作成部会は良質の問題作成のために多大な努力をしておられる。以下の各問題に対する評価は、問題作成部会の努力を認めた上でのコメントである。表中には問題の難易度をわかり易く表記するために、既存の検定試験である「ハングル能力検定試験」の相当級数（S欄）と、韓国ソウル大学語学研究院教材の該当級数（H欄）を併記した。「ハングル能力検定試験」は難易度が、5・4・3・準2・

2・準1・1級の順で高くなり、逆にソウル大学のテキストは1・2・3・4級の順で難易度が高くなっている。また、本委員会では今回の試験問題に使用された語彙をすべて抜き出し、それぞれの難易度を「ハングル能力検定試験」の学習の手引きをもとに測定してみた。参考にしていきたい。

2 試験問題の各設問に関して

問題	番号	領域	H	S
第1問 A				
*発音と表記に関する問題。(各音節)終声と後に続く初声との結合で音が変わる場合の知識を問うている。問1は比較的易しく適切な問題といえるが、問2は変化がかなり複雑で難易度の高い問題といえる。高等学校の韓国語教育において音の変化の問題をどの程度まで学習するべきであるのか現段階では具体的な学習目標が確立されていない。東京外国語大学や大阪外国語大学といった言語の専門教育を機関では、会話トレーニングと同時に音の変化の学習をおこなっているようである。また音節間の音の変化に乏しい日本語話者にとって、(音の変化)の学習は「コミュニケーションを成立させる」ためにも重要であることは間違いないのだが、音韻に対する基礎的な知識を持たない高校生に対してこのような設問のしかたが適切であるかどうか、再度作成部会の方々に検討していただきたい。特に[꽃잎]は、語彙自体がそれほど頻度数の高いものでないということも問題である。問題作成部会が作成している基礎語彙の中に含まれているものに限って出題するようお願いしたい。				
問1	1	ㄷ받침と初声[ㅎ]音との結合による激音化。 : [따뜻해요]→[따뜨태요]	4	1
問2	2	ㄷ받침と[이]音との結合による鼻音化とㄴ音の挿入と連音。 : [꽃잎이]→[꼰니피]	準2	3
第1問 B				
*漢字音の知識を問う問題。昨年度の問題と比較すると、より一般的な語彙が出題されており、また出題のねらいも明確である。しかし、漢字音の学習については研究者の中でも教育課程のどこに位置づけるか、意見がまちまちである。韓国内で作成された学習書には、文中の語彙について、それが漢字語であるという表記は通常ない。非漢字語圏学習者も教育対象にしているために、漢字音を教育内容として扱っていないのが実際である。これに対して日本国内で作成された学習書には漢字語の表記があるのが通常であるが、漢字のみを抽出し、その韓国語の発音を問う方法は、一般の教育現場ではあまり見かけられない。日本語話者が韓国語を習得する上で漢字音を学習することが重要であるということ、認識させる出題であると推測されるが、より適切な出題のしかたが望まれる。				
問1	3	漢字語の発音: 清潔 [청결]	準2	5
問2	4	漢字語の発音: 恩恵 [은혜]	準2	4
第1問 C				
*Bと同様に漢字音の知識を問う問題。				
問1	5	漢字語の発音: 常識 [상식]・条件 [조건]・状態 [상태]	準2	4
問2	6	漢字語の発音: 個人 [개인]・苦痛 [고통]・考察 [고찰]	準2	4
第2問 A				
*不規則活用動詞と規則活用動詞の知識及び活用の仕方を問う問題。問3の[깨닫다]は語彙としてかなり難易度が高い。				
問1	7	ㄹ変格活用動詞とㄷ変格活用動詞の活用	4	1
問2	8	ㄹ変格活用動詞とㄹ規則活用動詞の活用	3	1
問3	9	ㄷ変格活用動詞とㄷ規則活用動詞の活用	3	1
第2問 B				
*助詞・語彙・慣用表現に関する知識を問う問題。問2の助詞の問題では、日本語母語話者の場合「～が読めない」というように「が」を使用することが多いため間違いやすい。また問5の「～で」にあたるものとして[～에서][～으로]等があるためにこれも間違いやすい。				
問1	10	「～する前に」という表現: [～기 전에]	3	2
問2	11	「手紙が読めない」の「が」は[가]ではなく[를(目的)]	3	1
問3	12	「すまながる」の表現: [미안해하다]	2	3
問4	13	「道が込んでいる」の表現: [길이 막히다]	3	2

問5	14	「後(あと)で」の助詞「で」:[나중에]の[에]	3	1
問6	15	[끝까지~느니]は、[끝까지~느니보다:~する(よりは)]の用法で使われていることが理解できれば解ける問題であるが、かなりの難問といえる。前後の文意から「むしろ、返って」の[차라리]が正解。	2	4
第2問C *下線部が同じ意味になる表現を選ぶ問題。				
問1	16	「눈이 오다」の「오다」の言い換え:[눈이 내리다]	4	1
問2	17	「사십팔 세」の固有数詞での言い換え:[마흔여덟 살]	3	2
問3	18	正解は[계속해서]で比較的易しいと思われるが、選択肢が[끊어지면서],[숨김없이],[골고루]など紛らわしく、また語彙としても難易度が高い問題である。	3	3
問4	19	選択肢の[숨겼다],[고백했다],[강요했다],[정리했다]は比較的平易な語彙であるが、設問の[털어놓다]という語彙そのものが(難易度が高く)難問となっている。	準2	4
第2問D *設問文の意味を理解しそれに該当する語を選ぶという、正確な語彙力を問う問題。				
問1	20	[형의 아들]なので[조카]、平易な問題である。	3	2
問2	21	人の仕事に取り組む態度や、人物を形容する表現の形容詞を問う問題で語彙としては難問:[부지런하다]	準2	4
問3	22	人間の食事の細かい動作を表す語彙で、選択肢の語彙が紛らわしい問題:[씹다]	3	4
第2問E *日本語を韓国語に訳す際に、日本語との類似性からくる誤用を正確に見分けて正しい韓国語の表現を選ぶ問題。				
問1	23	[~でいらっしゃる:이십니다]が正答で、一見平易そうに見えるが、[いらっしゃる:계십니다]との誤用を招きやすい。	4	1
問2	24	日本語の「折る」という語に対して「指を折る(指を折って数える):썩다」「紙を折る:접다」「木の枝などを折る:꺾다」等があり、しっかりとした語彙力を問う問題である。	3	3
問3	25	使用語彙は難しくないが、表現としては難解である。日本語独特の助詞の使い方「~に~をしてもらいたいです」を韓国語に訳す場合どのように訳すかを問う問題。日本語と韓国語の助詞が似ているところから安易に訳すと誤訳になる。	2	3
問4	26	[닥치다:近づく]はそれほど難しい語彙ではないが、[닥치는 대로:手当たりしだい]の意味を理解するのは難しい	3	3
第3問A *ABからなる会話文の文意を読み取り、正確な文章を挿入して会話文を完成させる問題。語彙・語法・読解等の総合的な力を試す問題であるが、会話文を敢えて文章化した出題形式に慣れていないと難しいかもしれない。				
問1	27	[아주 더운 편이에요]から[날씨가 어때요?]を類推。	3	3
問2	28	[오신 지는 오래 되셨나요?]から[~년 되지요]を類推。	準2	2
問3	29	[백 엔짜리 하나밖에 없네요]から[잔돈은 없으세요?]を類推。	準2	2
問4	30	[조금 이따 들어와]から[지금은 안 돼]を類推。	準2	2
問5	31	二行目の[별로 안 좋네요]と4行目の[계속 먹고 있는데]から[잘 안 들어요]を類推。[들다]を「効く」と理解できるかどうか、少々難解。	準2	2
問6	32	[언제로 하시겠습니까?]ら[15일로 해 주시겠어요?]を類推。	3	2
問7	33	一行目の[다 읽었어요?]と3行目の[재미있었어요?]から[그럼요, 벌써 읽었죠]を類推。	準2	2
第3問B *Aと同様の問題であるが、会話文がより複雑で難易度が高い。韓国語によるコミュニケーションに慣れた者でないとかかり難い。				
問1	34	[불다:つく]に「合格する」の意味があることを知っているかどうかを問う問題。	準2	3

問 2	35	日本語「やることはやったんですけど」の適当な韓国語訳を探す問題。解答の[한다고 하긴]を「しようと思っただけ」という意味で理解できるかどうかを問う問題。若干難しい。②[하던 일은 다 했는데요]とした受験者が多かったのではないだろうか。	準 2	3
第3問 C *Bと同様の問題				
問 1	36	「お一人で来ていただくのは」を韓国語に直す問題だが、[한 분이 와 주시는 것이]や[한 분으로 오게 해 드리는 게]とした受験者が多かったのではないか。「おひとりで」の「ひとり」を、人数の単なる叙述である名詞[한 분]と考え、それに助詞「～で：～으로」をつけた表現と、副詞「一人きりで」の[혼자]とを区別できるかどうかを問うている。間違いやすく、また、敬語表現「来ていただくのは」を[오시게 하는 게]と訳すのも難しい。敬語表現に不慣れな高校生には、難しい問題である。	準 2	3
問 2	37	設問のそれまでの文意の流れを汲み取り、またその後の[같이 가기로 해 놓고 이렇게 돼서 정말 죄송합니다]にも繋ぐことができる表現を選ぶ問題。語彙として「迎えに行く：마중 나가다」がわかっていないと解けない。	3	3
第4問 *長文問題（丁寧な上称形：합니다体の文章） 趣味をテーマに扱った文章。複雑な表現は使用せず、わかり易い内容になっている。				
問 1	38	段落ごとの趣旨と、新たな話題を提供する展開になっていることが理解できているかどうかを問うている。「日本に対する私の関心は切手に書かれた浮世絵から始まったと言っても過言ではない」という前文と「ゴッホも浮世絵を見て大きな衝撃を受けたという」という後文との間に、「一方」という意味の副詞[한편]を挿入させる問題。他の解答を消去していくと[한편]のみが残るが、切手収集が趣味の話者[저]と[고흐]を対等に扱うかのような[한편]を挿入するには、若干違和感がある。	準 2	4
問 2	39	「話者の夢＝日本を訪れたいということ」の内容を把握し、[이루지 못 하여]と同義になる表現を選ぶ問題。正解は[갈 수 없어서]。	3	4
問 3	40	韓国語の擬態語知識を問う問題。「ぱあっと、広々と(窓を開けておく)」:[활짝]。日本語に比べ豊富である韓国語の擬声語・擬態語の出題は興味深い。韓国語の擬声語・擬態語の正確なニュアンスを日本語話者が習得するにはかなりの困難が伴うように思われる。また、擬声語・擬態語学習の教育課程が、未だ確立していないので、出題にあたってはさらなる検討を要望したい。	準 2	4
問 4	41/42	全体的な内容の把握と正確な文意の理解を求めている。	準 2	4/5
第5問 *長文問題（下称形：한다体の文章） 語彙等の難易度、文章の長さなど、適切な文章問題である。テーマを高校生にとって身近なできごとに設定し、また結末に意外な展開を準備したのも、「読む面白さ」を誘発するという点で評価できる。前年度と同様、長文問題は二題出題されたが、今後も一題は一般的な文化や時事に関するもの、もう一題は高校生の身近な話題を扱ったものにするのが適当であるように思われる。				
問 1	43	文中の[당신 일처럼]の意味を理解しているかどうかを問う問題である。「ご自分のことのように」という意味で使用されているが、実際のコミュニケーションの場面では[당신]の使用については、誤用を防ぐため、極力使用しないように指導しているのが現状である。	準 2	4
問 2	44	副詞[혹시]の意味を問う問題。	3	4
問 3	45	['설마!...'사망 환자...]より[돌아가셨다]を類推させる問題。[돌아가시다]が「亡くなる」の意味を表すことを理解していないとできない。	準 2	4
問 4	46	諺の知識を問う問題。「足のない馬（言葉）が千里を走る」	準 2	4

問 4	47/48	文章全体の意味把握と理解度を問う問題。	準 2	4/5
-----	-------	---------------------	-----	-----

参考) 問題中の語彙数と難易度

(「ハングル能力検定試験」の語彙難易度に照らし合わせて)

*問題中の語彙の内訳 (但し、2回目以降についてはカウントしていない)

475語	内訳)	体言	209語	(約44%)
		用言	141語	(約30%)
		その他 (副詞/助詞/語尾など)	125語	(約26%)

*難易度

	5級	4級	3級	準2級	2級以上	計
体言	24.9% (52語)	18.2% (38語)	26.3% (55語)	25.8% (54語)	4.8% (10語)	100% (209語)
用言	14.9% (21語)	24.8% (35語)	25.5% (36語)	29.8% (42語)	5.0% (7語)	100% (141語)
その他	17.6% (22語)	17.6% (22語)	24.8% (31語)	34.4% (43語)	5.6% (7語)	100% (125語)

3 お わ り に

これら問題分析、及び語彙の難易度からわかることは以下の通りである。

- ① 出題内容は昨年度より若干難しくなっていると言える。(「ハングル能力検定試験」の学習の目安を参考にした場合)
- ② 発音、漢字音の問題に始まり、会話文、長文読解と続く問題の構成は、ほぼ昨年度と同じである。
- ③ 一定学習時間数(12単位以上)があれば、恐らく60%前後の正答が可能な問題である。
①～③より、無難な問題であると言える。
また、最後に本委員会からの問題作成部会への要望を2点付け加える。

① センター試験の水準に対応した高校学校が国内に1校のみという現状があるものの、作題において実際の教育状況を把握することは常に重要である。問題作成部会による教育現場の実態把握調査を要望するものである。

② 昨年度及び今年度の作題に当たり、作成部会では基礎となる語彙を整理しているはずである。本来、作題に当たっては高等学校で使用されている教材を検討する作業を通じて語彙を抽出することが望ましいが、教材自体がないため、既存の辞書等から高校生用の学習語彙を類推して抽出しているのではないだろうか。センター試験対応の学習参考書等が皆無の現在、学習単位数が不足している生徒でも受験が可能となるよう、基礎語彙や学習の目安の公開を求めるのは不可能なことであろうか。検討をお願いしたい。

以上、現場の教育に携わる者としていくつかの要望を述べさせていただいた。高等学校における韓国語教育が、今後更に発展するためには、現場の教員たちと作題にかかわる先生方との密な意見交換が必要である。毎年行なわれるセンター試験の出題を一つの土俵として、幅広い関心のもと、積極的な議論が展開されることを望む。